

ECONOMY トータルコストを考慮して経費削減を

RESEARCH ペルーに最先端整備工場がオープン

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY 南アフリカでの社会貢献活動



ポ・ヴェーグ PÅ VÄG

A MAGAZINE FROM VOLVO TRUCKS JAPAN SEPTEMBER 2011 NO.49

Providing Superior Conditions

活魚輸送とドライバーを支えるボルボ・トラック

ユーザー・インタビュー

活魚輸送とドライバーを支える ボルボ・トラック

有限会社山立水産運輸

神奈川県三浦市の有限会社山立水産運輸は、
魚介類を最適な環境で運ぶ活魚輸送のプロフェッショナル。
国内のみならず韓国への運搬も手掛ける同社の活魚輸送の主役は、
特殊な水槽を備えたボルボ・トラックだ。





山立水産運輸のドライバーは荷主からの信頼が厚い。魚介類の積み込みの際には、ドライバー自ら魚を選別するため、「魚を見る目」も持っている。



“ドライバーにはできるだけ良い環境で働いてもらいたい。居住性の良さは最重要なのです。”

有限会社山立水産運輸 立川明彦社長



「あの会社に運んでもらってよかった、とお客様に喜んでもらえる仕事を日々心がけています」と語る立川社長。

「三崎マグロ」で知られる漁業の町、三浦市三崎。有限会社山立水産運輸は、この地を拠点に鮮魚、活魚、自動車部品などの輸送を行っている。設立は1995年。現在の車両保有台数は23台で、そのうち7台がボルボ・トラックだ。

土地柄、輸送品の9割以上を魚介類が占める。中でも得意としているのが魚介類を生きのまま運ぶ活魚輸送である。立川明彦社長がまだ個人で運送業をしていた1989年に、当時全国的にも珍しかった水槽付きの活魚運搬車をいち早く導入。以来、立川社長自らが設計に携わりながら改良を重ね、車両を増やしてきた。現在は14台の活魚運搬車が活躍している。

活魚車で運ぶのはハマチ、カンパチ、ヒラメ、カニなど。水槽は、運ぶ魚の種類によって、その都度仕様を変えられるようになっており、それぞれの魚にとって最適な環境で運搬される。

「たとえば、ヒラメを運ぶときには、折り畳み式の仕切りをはめて、水槽の中に3段の柵を作ります。ヒラメを重ねて入れるわけにはいかないですからね。まず、何もない状態で200枚入れ、2段目に200枚、3段目にも200枚と入れていくのです。そうすれば、魚にストレスを与えることなく、一度に多くのヒラメを運べますし、サイズ別に積むこともできます」

活魚輸送では、水温を一定に保つことも重要だ。以前は15℃に保てる程度だったが、最新の装置では0℃まで下げることができるという。カニなどを運ぶ際には、0～4℃に水温を保てるのが輸送の必須条件となる。

三崎発の活魚は、主に関東、東北に輸送している。しかし、山立水産運輸の活魚輸送はそれだけにとどまらない。

「韓国との取引は1998年頃から。メクラウナギを韓国に運んでほしいという依頼があったのが最初です。その後、実績が認められるにつれ、韓国の取引先も増えました。今では、東北、北海道からホヤやホタテ、カニなどを運び、韓国からはヒラメなどを積んで帰ってきます。韓国では、フェリーでプサン港に着いてからインチョンやトンヘイまで自社のトラックで走っています」

韓国への輸送は、ほとんどボルボ・トラックを使用している。フルエアサスで魚への負担が軽いボルボは、荷主からの評価も高い。

「韓国の荷主からは、ボルボ・トラックで運んでほしいという要望は多いです。うちの社名は覚えていなくても、ボルボで活魚を運ぶ会社というイメージで覚えてもらっています(笑)」

山立水産運輸が最初にボルボ・トラックを導入したのは2005年。当初は特殊ボディの取り付けなどに苦労したが、ボディ製造会社と



シャンパンゴールドのボディが印象的な山立水産運輸のボルボ・トラック。
広いキャビンの中には、カーナビ、冷蔵庫、19インチの液晶テレビが搭載されている。

の協力で問題を解決し、着実に台数を増やしてきた。2012年に、さらに2台のボルボ・トラックが加わる予定だ。

同社がボルボを増やす理由は、荷主からの要望だけではない。新しい車両を購入すると必ず自らハンドルを握って試してみようという立川社長は、ボルボの最大の魅力を居住性の良さだという。

「ボルボ・トラックはとにかくキャビンが広い。活魚輸送の場合、1台積み込むのに3時間くらいかかります。大量の汗をかくので、1日に何度も着替えるのですが、ボルボでの着替えは楽ですね。ベッドまわりも広くていい。特に新しいタイプのボルボは、シングルふとんがぴったり入るので、普通のベッドで寝ると変わらないんです。冗談でアパートを引き上げてボルボ・トラックで暮らしたいと言っているドライバーもいるくらいです(笑)」

山立水産運輸では、全車両にカーナビ、冷蔵庫、19インチの液晶テレビを搭載している。立川社長が試乗して、あると便利だろうと思ったものを設置しているのだ。そこには、ドライバーにより良い環境で働いてもらいたいという社長の思いが込められている。

「そういうことをすることによって、ドライバーの仕事に対する意識が変わってきます。やる気が起きなければ何もできないですから。当社は長距離輸送が多く、一度出発したら1週間くらい帰って

こないことは普通。長時間トラックで過ごすわけですから、ドライバーにはできるだけ良い環境で働いてもらいたいと思っています。居住性の良さは最重要なのです」

そうした社長の思いはドライバーにしっかりと伝わっている。顧客からドライバーを指名した仕事が多いのも、個々のドライバーのモチベーションと仕事への意識の高さを示しているだろう。

弛まぬ努力で改良を続ける水槽などの設備と、モチベーションの高い経験豊富なドライバー。そうした山立水産運輸の強みを、安全性と居住性に優れたボルボ・トラックが支えている。■



有限会社山立水産運輸

営業所

〒238-0243

神奈川県三浦市三崎 5-245-7-4F

TEL 046-882-1771

FAX 046-881-7107